

## 二〇一七年度活動記録

### 《シンポジウム》

#### ● 公開シンポジウム

「小劇場演劇の現在・未来」

● 日時 二〇一七年十一月五日(日) 十三時～十八時

● 場所 立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館三階多目的ホール

#### ● 内容

演劇史を振り返ると幾多の小劇場演劇が誕生し消えていった。いくつかの作品は、より多くの観客を魅了する演劇作品として評価され、優れた表現者たちを世に送り出していったが、それ以外のほとんどの作品は、ごく限られた観客の記憶に残るだけで消えていった。小劇場演劇は自由で多様な表現世界を持っている。エンターテインメントとしても優れている。だが、その楽しさを知っているのは劇場に足を運ぶことができるごくわずかな観客のみであり、そこに居合わせることができない大勢の人々にとっては永遠に出会うことができない未知の世界である。本シンポジウムはこの問題に焦点を当て、多くの人々がその魅力を知ることができる環境を整えるには何が必要なのかという観点から小劇場演劇の現在と未来を展望し、可能性を掘り起こそうとするものである。

#### ● 講師

高萩 宏 (東京芸術劇場副館長)

早船 聡 (劇作家、演出家、俳優、劇団サスペンデツズ主宰)

#### ● パネリスト

嶋田直哉 (明治大学政治経済学部准教授)

後藤隆基 (立教大学社会学部教育研究コーディネーター)

#### ● 司会

石川 巧 (立教大学文学部教授)

● 主催 立教大学文学部文学科日本文学専修・日本文学専攻

● 共催 立教大学日本文学会

江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

日本学研究所

#### ● 公開シンポジウム

「大久保利謙と日本近代史研究 家族・学問・教育」

● 日時 二〇一七年十二月八日(金) 十九時～二十時三十分

九日(土) 十時～十八時

● 場所 立教大学池袋キャンパス十号館X二〇四教室(八日)、四号館四三三九教室(九日)

#### ● 内容

明治維新の立役者である大久保利通を祖父、大阪府知事の大久保利武を父とする大久保利謙(一九〇〇―一九九五)は、日本の歴史学者である。戦後、その人脈を通じて国立国会図書館に憲政資料室を創設するとともに、名古屋大学並びに立教大学教授をつとめた。大久保は、従来研究対象とはみなされていなかった日本近代史研究を学問分野として確立し、政治史、行政史、文化史、大学史、洋学史、史学史など多様な分野において学問的基礎を築いた。史学史上重要な位置を占めるにもかかわらず、またその著作集『大久保利謙歴史著作集』八巻、

吉川弘文館、一九八六―一九九三）ならびに自伝（『日本近代史学事始め』岩波新書、一九九六）は刊行されているにもかかわらず、いまだ大久保自身の研究業績や活動に対する検討はなされていない。本シンポジウムはそのような大久保の活動や業績を史学史に位置付ける初の試みである。

シンポジウムでは、大久保の影響の下に近代日本の歴史学と国家の関係を解明した『History and the State in Nineteenth-Century Japan』（Palgrave-Macmillan, 1998）の著者であるマーガレット・メール博士による基調講演が八日に、佐藤雄基、松沢裕作、小澤実、そして大久保の自伝の編集に関わった今井修による大久保の活動の様々な側面の報告が九日に開催される。なお、九日には、大久保利謙の蔵書（大久保文庫）を擁する立教大学図書館に所蔵されている大久保文庫資料の展示もおこなう。

● 基調講演（八日）

マーガレット・メール（コペンハーゲン大学）

「大久保利謙先生と私の研究 史学史・漢学教育・音楽史を中心に」

● 報告（九日）

佐藤雄基（立教大学文学部准教授）

「大久保利謙と利謙：立教大学図書館所蔵大久保コレクションからみた大久保父子の学問形成」

松沢裕作（慶應義塾大学経済学部准教授）

「大久保利謙と戦後日本近代史研究の出版」

小澤 実（立教大学文学部准教授）

「大久保利謙と1950-60年代の立教大学史学科」

今井 修（早稲田大学非常勤講師）

「大久保史学の史学史的位置」

● 共催

科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究）（課題番号15KK0062 研究代表者：小澤実）

《研究例会》

● 第五十八回研究例会

「第三回 海外の日本文化研究——その動向と可能性——」

● 日時 二〇一七年七月二十二日（土）十四時～十七時

● 場所 立教大学池袋キャンパス六号館六二〇五教室

● 内容

立教大学は多くの留学生が在籍し、スーパーグローバル大学（グローバル化牽引型）にも指定されており、研究の国際化や国際交流の中核を担う大学として期待されている。しかしながら、本学の留学生の研究内容やその問題意識は、学生や教員間において必ずしも十分に共有されているとはいえない。本例会では、今後海外において日本文化研究を推進していくであろう留学生たちによる研究発表を行う。海外各国における日本文化研究の動向や関心についても発表者による報告を行い、世界における日本文化研究の今後の方向性や可能性について議論したい。

● 講師・演題

徐 丹（北京外国語大学北京日本学研究中心大学院生・日本学研

究所研究員)

『今昔物語集』本朝世俗部における女性像」

Mathieu FAURE (マチュー・フォレ 立教大学大学院生)

「近世日本の職人集団の存在形態」

肖 江楽 (立教大学大学院生)

「ロプシャイト『英華字典』における『英和対訳袖珍辞書』初版の参看の可能性をめぐる」

● 司会・コーディネーター

鈴木 彰 (立教大学文学部文学科教授・日本学研究所副所長)

● 第五十九回研究例会

「前近代東アジアにおける術数文化の伝播・展開——ベトナムと日本・中国を中心として——」

● 日時 二〇一七年十月十四日(土) 十三時三十分～十七時三十分

● 場所 立教大学池袋キャンパス八号館八三〇三教室

● 内容

「術数」とは古代中国で成立した陰陽・五行の数理に基づく吉凶判断であり、前近代を通じて東アジアの国々に広く伝播し、それぞれの社会に深く浸透してゆくことで、それぞれの民族文化の形成にも強い影響を与えた。しかしながら、主に議論されるのは中国での形成・展開の問題であり、「術数文化」の諸国・諸地域への伝播・展開について論じられることはさほど多くはない。そのため、昨年の本研究所第57回例会において、朝鮮半島と日本・中国を射程に入れ、このような「術数文化」を文化交流史・比較文化史の観点から議論をし、引き続き対象を広くもち検討すべきことを確認した。そこで、今回はベトナム及

び日本を中心検討対象として、中国文化の周辺地域への伝播・展開の諸相を明らかにする議論の手がかりとしたい。さらには広く「術数文化とは何か」を考える契機としていきたい。

● 講師

PHAM Le Huy (ファム・レ・フイ ベトナム国家大学ハノイ校講師)

「ベトナム李朝期の祥瑞について」

佐野愛子 (明治大学大学院博士後期課程)

「『粤甸幽霊集録』における災異」

佐々木聡 (大阪府立大学・日本学術振興会特別研究員PD)

「越南漢籍に見える天文五行占の受容」

● 総合司会・コーディネーター

鈴木 彰 (文学部教授・日本学研究所副所長)

● 司会・趣旨説明

水口幹記 (藤女子大学文学部准教授・日本学研究所員)

● 共催

日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)(一般)「前近代東アジアにおける術数文化の形成と伝播・展開に関する学際的研究」(課題番号16H03406。研究代表者：水口幹記)

● 第六十回研究例会

「薩摩藩の文芸とその環境——地域資料からの展望」

● 日時 二〇一七年十二月十七日(日) 十時～十八時

● 場所 立教大学池袋キャンパス十二号館第一・二会議室

● 内容

十六〜十七世紀の、いわゆる中世近世移行期を経て、幕藩体制の安定化が図られていくのに対応する形で、南九州に拠点をおく薩摩藩・島津家でもそれまでとは異なる新たな体制整備が進められていった。その過程では、藩主島津家以下諸家において現在に至るまでの家譜を再構成したり、領内の寺社や名所・旧跡を含めたあらゆる〈場〉がもつ由緒が検証されたりしたことが明らかとなっている。一方、そうした政治的な動きと不可分な形で、さまざまな文芸にかかわる営みが活性化していたことについては、まだ十分な検討がなされていない。この研究例会では、薩摩藩に関わる十七〜十九世紀の文芸資料を取りあげ、それぞれがもつ意義を資料学的側面を中心として検証するとともに、薩摩藩が近世を通じて育んでいった文芸をめぐる環境の質について、他藩の状況も視野に入れながら検討する。山口眞琴氏・丹羽謙治氏による基調講演を行い、木村淳也氏・宮腰直人氏及び鈴木彰の研究発表を踏まえて、全体討論を行う。

● 基調講演

山口眞琴（兵庫教育大学）

『本藩人物誌』から浮かび上がる諸問題

丹羽謙治（鹿児島大学）

「薩摩藩の文学・歴史資料の転写と保存について」

● 研究発表

木村淳也（明治大学）

「薩摩が描いた「琉球」——『琉客談記』『琉館筆譚』から見えるもの」

宮腰直人（山形大学）

「米沢藩士と語り物文芸——平曲と幸若舞曲を中心にして」

鈴木 彰（立教大学）

「移行期を生きた薩摩藩士の文事——『高麗渡』と『夢物語』」

● コーディネーター・司会

鈴木 彰（立教大学文学部教授・日本学研究所副所長）

● 共催

日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）「戦国期島津氏の領国文化とその近世的再編を支えた文芸環境の研究」（課題番号25570236 研究代表者：鈴木 彰）